

論壇

株価下落は過剰反応

「一番の恐怖は人々の恐怖心である」。これは1930年代の世界大恐慌のときに言われた有名な言葉だ。失業率が25%という深刻な不況の中にあつて、時の政治家が口にした言葉だと言われている。大恐慌で株価は暴落し、失業者は巷に溢れ、企業の倒産が続く。世の中は恐ろしい状態であるが、本心に怖いのとは人々がそうした恐怖心を持つことだ。それが経済をさらに悪化させるからだ。

当時と比べると悪化する状況にあるわけではないが、人々の心理状況が恐怖の種ということは、今

東大教授(国際経済学) 伊藤 元重

に通じるところがある。年初から世界的な市場の混乱が続いている。株価は大幅に下落し、為替は急速に円高に向かっていく。企業の業績予想は下方修正が続く、中国をはじめとした新興国通貨は大きく値を下げている。

こうした状況を受けて、日本経済の先行きに悲観的な見方をする

経済を悪化させる「恐怖心」

人が増えている。この悲観的な見方が問題であるのだ。人々が弱気になるれば、それだけ消費や投資は落ち込み、景気も失速することになるからだ。

たしかに、現在の世界経済情勢は厳しい状況だ。しかし、市場の反応は時として過剰に動くもの

だ。新興国の通貨にしても、主要国の株価にしても、ある程度の落ち着きが出てくれば、それなりの水準に戻ることも十分に考えられる。特に日本のケースでは、企業の収益が好調であるだけに、今回の株価下落はあまりに過剰反応であると言える。

日銀のマイナス金利政策という

ば、配当は3万円ももらえないことになる。

ではなぜ銀行の株を買わないかと聞けば、株価がもっと下がる恐れがあるから、という答えが返ってくる。それだけ、今の株式相場は人々の弱気が支配しているとも言える。ただ、企業の業績が好調を続けるのであれば、こうした過剰な弱気はいずれ修正されるはずだ。

じわじわと良い影響

さて、いま世界経済で起きていることは、日本経済にとって決してマイナス面だけではない。石油や天然ガスの価格が暴落したこと、資源関連企業や商社に大きな損失をもたらした。これがマイナスマテリアルとなっているが、石油価格が安くなることは、本来は日本経済にプラス材料となるはずだ。ただ、プラス材料の言はなかなか聞かえてこない。

石油価格の大幅下落の悪い部分は一気に出てくるが、石油価格が安くなることのメリットは時間をかけてじわじわと広がるからだ。為替レートの変化もそうだ。120円から110円に急激に円高レートの動くことは、多くの企業に悪影響をもたらす。しかし、110円というレートは、日本経済にとってそんなに悪い水準ではない。

悪い影響は一気に出てくるが、良い影響はじわじわと広がっていく。経済が大きく変化するときの原則である。目先の混乱にあまり過度に反応しないことが日本経済を悪くさせないためにも必要だ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。